国際シンポジウムⅠ（核兵器課題）

パネリストプロフィール

|  |  |
| --- | --- |
| 秋葉忠利（あきばただとし） | 原水禁国民会議顧問 |
| 広島県原水禁代表委員、前広島市長1942年東京生まれ。高校時代にAFS留学生としてアメリカの高校卒業。東大、MITで数学専攻。Ph.D.取得後、ニューヨーク州立大学、タフツ大学、広島修道大学、広島大学等で教鞭をとる。1980年代に世界のジャーナリストを広島・長崎に招待し、被爆の実相を伝えて貰う「アキバ・プロジェクト」を創設。1990年から衆議院議員を10年近く務め、1999年に広島市長就任。3期12年在職。在職中、平和市長会議議長。その後2014年まで広島大学特任教授、AFS日本協会理事長。アジアのノーベル賞といわれる「マグサイサイ賞」などを受賞。著書に『真珠と桜－「ヒロシマ」から見たアメリカの心』(1986年朝日新聞社刊)、『ヒロシマ市長』(2012年朝日新聞出版刊) 、『新版　報復ではなく和解を』(2015年岩波書店刊)、『天皇と憲法――数学書として憲法を読む』(２０１９年法政大学出版局刊)他。 |
| グレゴリー・カラーキー（Gregory Kulacki） | 憂慮する科学者同盟 |
| 「憂慮する科学者同盟」（Union of Concerned Scientist）の「グローバル安全保障プログラム」の上級アナリスト。また長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）で、外国人客員研究員を務めている。2002年から「憂慮する科学者同盟」において、アメリカ、中国、日本間での核兵器に関わる文化間コミュニケーションをより効果的に行うために尽力してきた。最初1984年に、メリーランド大学院生として中国を訪れた。同大学で「政府と政治」専攻で博士号を取得した。専門家として20年以上中国に住みながら仕事を、現在は東京在住である。 |
| ケヴィン・マーティン(Kevin Martin) | ピースアクション(Peace Action)代表 |
| メリーランド州立大学で国際政治を専攻。ピースアクション(Peace Action)代表を務め、日本、ロシア、中国、メキシコ、フランス、ドイツ、イギリスなど世界各地で講演を行っている。ピースアクションはアメリカ最大の平和軍縮団体で全米20万の支持メンバーがいます。また「コレア平和ネットワーク」（Korea Peace Network）という、平和団体、宗教団体、退役軍人団体、韓国系アメリカ人団体が結集して、朝鮮半島の平和と和解を訴えて活動している、全米草の根ネットワークの運営をしています。 |

国際シンポジウムⅡ（脱原発・エネルギー政策課題）

パネリストプロフィール

|  |  |
| --- | --- |
| 松原　弘直（まつばら　ひろなお） | 環境エネルギー政策研究所 理事・主席研究員 |
| 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 理事・主席研究員。工学博士。日本太陽エネルギー学会理事、やちよ自然エネルギー市民協議会代表、自然エネルギーを広げるネットワークちば代表、環境プランナーERO。千葉県出身。東京工業大学においてエネルギー変換工学の研究で学位取得後、製鉄会社研究員、ITコンサルタントなどを経て、持続可能な自然エネルギー100%社会の実現に向けて取り組む研究者として現在に至る。 |
|  キ厶・ヒョンウ（金賢雨） | 脱核新聞・運営委員長 |
| 韓国労働社会研究所、民主労働党、進歩新党で活動した。エネルギー気候政策研究所で10年間研究員として働きながら、エネルギーシステムの正義の移行とエネルギー民主主義を研究しており、エネルギーシフト、都市政治、公共交通機関、ガバナンスの民主化などに関心を持って文章を書いた。現在は脱核新聞の運営委員長として新聞の発刊を助け、気候の危機を知らせる教育と脱成長の研究に力を入れている。書いた本で「アントニオ・グラムシ」「正義の転換」、「気候危機と脱核」（共著）などがあり、翻訳した本で「国を取り戻そう」「GDPの政治学」「緑の労働組合は、可能である」「他の世界のための7つの選択肢」（共訳）などがある。 |
| ステファン・ヴェンゼール(Stefan Wenzel) | 農業経済学者 |
| 1998年からニーダーザクセン州議会議員に選ばれ、2013年州政府環境・エネルギー・気候変動防止担当副大臣になった。ドイツ上院（地方政府代表で構成）にメンバーになり、環境、自然保護、発電所安全性委員会の議長を務めた。2014年には議論の的であるゴルレーベン(Gorleben) 核廃棄物施設の将来に関する交渉を領導した。2014年から16年にかけて、「核廃棄物処分に関するドイツ臨時全国委員会」メンバーであった。 |

基調講演者プロフィール

|  |  |
| --- | --- |
| 武藤　類子（むとう　るいこ） | 福島原発告訴団代表 |
| 1953年福島県生まれ。1986年チェルノブイリ原発事故を契機に脱原発運動に携わる。特別支援学校教員を経て、2003年自然とともに生きる暮らしを提案する「里山喫茶きらら」を開店。福島原発事故後、「きらら」を閉店し、東電旧経営陣の刑事責任を追及する福島原発告訴団代表。原発事故被害者団体連絡会共同代表。3・11甲状腺がん子ども基金副代表理事。近刊「10年後の福島からあなたへ」（大月書店）。 |